

平成十六年度現代宗教研究所事業報告

1、教化研究会議

【1】第三十七回中央教化研究会議

期 日 平成十六年九月八日（水）・九日（木）

会 場 日蓮宗宗務院

宿 舎 品川プリンスホテル本館

参加人数 一四四名

開催趣旨

(1)中央教化研究会議は、広く法華経教化について論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催します。

(2)中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、教区・管区での教化活動の現状を話し合い、教化に係わる諸問題を研究・調査します。

(3)討議を通して、教学の現代化、教化の方策、社会問題等に取り組み、問題の把握、解決、教材

資料の作成をめざします。

(4)論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識をたかめます。

テーマ

日蓮宗の教化学を考える

―私たちの布教教化は世間を引きつけていますか

(説明)

本年度で四十周年となる現宗研設立基本目的のひとつが、教学の現代化、すなわち「教化学」の確立です。教化学の確立のために、現場の教師の必要から始まったのが教化研究会議であり、その実動部門が教化センターです。現在、中央教研・十一教区教研が開かれ、四十三教化センターが実動しています。

一昨年の機構改革で「伝道宗門」体制となったことは、現場の教師や宗務所が布教すべし、と訴

えつづけた現宗研の声が反映されたものと思いません。

いま現宗研設立の原点である「教化学」の確立を見据え、宗門の更なる発展に資したいと考え、本年の中央教研を、「日蓮宗の教化学を考える―私たちの布教教化は世間を引きつけていますか」のテーマで開催します。

岩間湛正宗務総長のいう「世間の目線にたった布教」は、教師の姿勢そのものを問うています。法華系新宗教にくらべて布教教化の実効があがっていないと思われるなら、その原因を思い切り決つてみる必要があります。

教師が檀信徒をこえて世間との関係に気づくことが布教教化の先決問題、と言う点を問題提起として、停滞打破のための新概念をさぐります。

基調報告に対し、パネルディスカッションで五師が分科会を背景にして更に問題点を出し、三分科会で具体的にふれていただきます。

開催方式

今回の中央教化研究会議は、左記の方式で開催します。

①日蓮宗現代宗教学研究田澤元泰所長による基調報告

②パネルディスカッション

③基調報告とパネルディスカッションを問題提起として、現宗研通年調査研究事項に連動した三分科会（1現代と教学、2教団・教化、3現代社会）にわかれ、

1現代と教学 ―真偽未決御書を布教教化の上でどう捉えるか

2教団・教化 ―世間の目線にたった布教、二

十一世紀に適應する具体的な教師像

3現代社会 ―新宗教とその対策についての視点から検討し、具体的な提案にまとめます。

申込時に、参加分科会の希望を聞きます。

④全体会議で三分科会の報告を聞き、テーマ「日蓮宗の教化学を考える―私たちの布教教化は世間を引きつけていますか」のまとめを行います

す。

⑤各教区教研会議報告書や討議資料、管区並びに教化センターで作成された教箋等の教化資料を展示し、教化情報のコーナーで宣伝します。各寺院教会結社や個人有志で発行のものは、各管区（教化センター）に委託して下さい。

日程

第一日目 九月八日（水）

受付 一〇時〇〇分
開会式 一〇時三〇分
基調講演 一一時〇〇分～一一時四〇分
「布教教化を機能させるには」

現宗研所長 田澤元泰

昼食 一一時四〇分～一二時三〇分
パネルディスカッション 一二時三〇分～一四時三〇分
移動 一四時三〇分～一四時四五分
分科会討議 一四時四五分～一七時〇〇分

（1―四階第一・二研修室 2―五階講堂

3―四階第三・四研修室）

移動 一七時一五分
夕食会 一八時三〇分～二〇時〇〇分
第二日目 九月九日（木）

朝食 八時〇〇分
移動 八時〇〇分
分科会討議 九時〇〇分～一一時〇〇分
全体会議 一一時一五分～一二時一五分
閉会式 一二時一五分～一二時三〇分
昼食 一二時三〇分～一三時〇〇分
解散 一三時〇〇分

参加者

教区教研運営委員、或いは内容に関心がある教師（管区一名必ず参加のこと。一名以上参加ご希望の場合は、宗務所からあらかじめ日蓮宗現代宗教研研究所へご一報ください）。女性教師も積極的にご参加ください。

【2】教区教化研究会議

十一教区にて開催。日時・テーマは次の通りであ

る。

●第三十四回近畿教区教化研究会議

六月十日 兵庫県養父市但馬長寿の郷にて開催

テーマ「住職学入門・通夜説教を学ぶ」

講義「通夜説教の理論と実際」

中村智亮（京都府実成院住職）

模説「通夜説教の実例」

有本智心（大阪）

植田観樹（豊能）

大島鳳淳（奈良）

谷口慈修（兵庫）

分散会「オリジナル通夜説教作成会議」

「プロトタイプ発表」

●第二十四回九州教区教化研究会議

六月十五日～十六日 佐賀県唐津市唐津ロイヤ

ルホテルにて開催

基調講演「信仰の相続」

久住謙是（現宗研前所長）

第一分科会「携帯端末対応ホームページの可能性」

第二分科会「過疎地寺院対策についての提案」

第三分科会「次世代へのアプローチ」

●第二十八回中四国教区教化研究会議

六月二十一日～二十二日 愛媛県松山市JAL

シティにて開催

テーマ「伝道者としての教師の自覚と実践」

基調講演「情報化時代の実用問題解決技法

— 仏教的で、手軽に、便利なKJ法

桐谷征一（東京都本納寺住職）

第一分科会「未信徒に日蓮聖人の何を伝えているか」

第二分科会「檀信徒に日蓮聖人の何を伝えているか」

第三分科会「教師に日蓮聖人の何を伝えているか」

第四分科会「寺族に日蓮聖人の何を伝えているか」

●第二十八回北海道教区教化研究会議

八月二十四日 北海道旭川市旭川グランドホテ

ルにて開催

基調講演 「心の痛みを分かち合おう―犯罪被害

者の精神的ケアを考える―」

講師 「教悔師から見た犯罪被害者への思い」

今田忠彰（東京南部宗務所社会教化事業協会）

講師 「時と癒し」

善養寺圭子（北海道被害者相談室長）

第一分散会 「和みの場である寺院の活用方法」

第二分散会 「仏事を通しての対応

―通夜から四十九日迄」

第三分散会 「『心の痛みを分かち合う』

―本宗教師として」

●第二十一回北陸教区教化研究会議

十月二十一日 新潟県佐渡市 Ryōkan 浦島にて

開催

基調講演 「病みゆく子どもたち―リストカット

ト・自殺・薬物乱用・非行・犯罪」

水谷修（市立横浜総合高校教諭）

第一部会（社会問題部会）

「私たちの身近な社会教化活動」

第二部会（青少年問題部会）

「青少年女の今―非行・薬物問題を考

える―私たち僧侶は何をするべきか

―」

●第二十三回東北教区教化研究会議

十一月二十五日―二十六日 宮城県仙台市仙台

国際ホテルにて開催

基調講演 「非暴力の実践

―現代に於ける不軽菩薩とは―」

大畑豊（「非暴力平和隊・日本」共同代表）

分散会

●第二十八回中部教区教化研究会議

十一月三十日 岐阜県岐阜市岐阜会館にて開催

基調講演 「これからの寺院活動を問う」

石川教道（東京都清徳寺住職）

第一分科会 「年間行事の将来について考える」

第二分科会 「寺院の公共性と教師の社会性の将

来について考える」

第三分科会「布教活動の将来について考える」

●第二十九回山静教区教化研究会議

平成十七年二月二十二日 静岡県掛川市やすら

ぎセレモニーホールにて開催

テーマ「世間の目線にたった布教教化について

―私たちの布教教化は機能していますか―

基調講演「世間の目線にたった布教教化について

―私たちの布教教化は機能して

いますか―」 影山教俊（現宗研嘱託）

分散会

●第二十九回京浜教区教化研究会議

平成十七年二月二十八日 東京都大田区朗峰会

館にて開催

テーマ「お寺と災害救援」

基調講演

「災害救援活動の実際―新潟県中越地震の例」

東京都南部社会活動部会

「被災者の思い」

望月は範（新潟県妙栄寺住職）

「何のためにがんばるのか―災害救援活動の理

念」ケン・ジョセフ（日本緊急援助隊代表）

●第二十二回千葉教区教化研究会議

平成十七年二月二十八日 千葉県浦安市浦安ブ

ライトンホテルにて開催

テーマ「新宗教対応策を考える」

講演「今、何故ダイベートが必要か」

赤堀正明（千葉県常不軽寺住職）

「宗教カルトのマインドコントロールについ

て」 西田公昭（静岡県立大学助教授）

●第十一回北関東教区教化研究会議

平成十七年三月十日 埼玉県さいたま市パレス

ホテル大宮にて開催

テーマ「虐待の現状とその対応

―家庭内にある児童・老人・夫婦等―

基調講演

戸澤宗充（東京都一華結社教導）

2、研究・調査活動

(1)左記の各プロジェクトチームにおいて、それぞれ調

査・研究を進めた。

(スローライフ) 〈組織〉

●現代と教学プロジェクト

(伊藤如顕顧問、石川教道・早坂鳳城・吉田弘信・有本智心各嘱託、中井本秀・松森孝雄各研究員)

①教学の現代的把握

②教学機能論(聖典真偽論・日蓮本仏論・〇〇

教学)

●教団・教化プロジェクト

(久住謙是・井本学雄各顧問、石川修道・馬渡竜彦・山田妙眞・影山教俊・遠藤了暉・野村環右・成田東吾・大島豊扇・鈴木大道・岩本泰寛各嘱託、宇都宮恵禎・内山善行・讃岐英昌・小寺成文・伊藤美妙・中里観泰・齊藤政通・小瀬修達各研究員)

①世間の目線にたった布教

(宗務院女性室設置) 〈布教伝道〉

②教化機能論(教化学・伝承学)

②過疎過密にかかわる寺院の適正配置

③二十一世紀に適應する具体的な教師像

(教師指導教師―師家) 〈教育〉

⑤葬儀に係わる全てのことについての規範〈葬儀〉

④IT

(中央教化センター機能・データ・電子会議・現宗研ホームページ)

●現代社会プロジェクト

(木村勝行・石川浩徳・新聞智照各顧問、石井英雄・石原顕正・牟田口義隆・小林貫誠・黒木源章・梅森寛誠各嘱託、坂輪宣政・堀江宏文・馬島浄圭・八竹成奉各研究員)

①社会問題への意思表示

(新追悼施設・宗教教育) 〈布教伝道〉

②立正平和運動

③生命倫理

④新宗教(ブックレット『その勧誘の手口』作成)

●教研会議プロジェクト

(久住謙是顧問、岩本泰寛・灘上智生・馬渡竜彦・影山教俊・小澤恵修・早坂鳳城・梅森寛誠各囑託、中井本秀研究員)

(2)研究講座・教化学研究集会・研究懇談会を開催した。

●八月三十日、教化学研究集会を大阪府高槻市総合市民交流センターに於いて開催した。

講演「お自我偈の中の久遠の仏さま」

庵谷行亨(立正大学仏教学部教授)

●十一月十日、第五回教化学研究発表大会を宗務院に於いて開催した。

「寺庭婦人の抱える諸問題と将来への展望」

灘上智生(神奈川県善行寺修徒)

「日蓮聖人伝承における外護集団の一考察」

石川修道(東京都法華寺住職)

「救援の思想を考える」

「被災地阪神の人々との10年を振り返って」

石原顕正(山梨県立本寺住職)

「法器養成について」

「布教教化の機能的側面より模索する」

影山教俊(千葉県釈迦寺住職)

「アジア仏教徒との協同社会事業について」

小野文琬(群馬県天龍寺住職)

「宗門に男女共同参画推進センターの設立を」

伊藤美妙(北海道瑞玄寺住職)

「不軽菩薩の行を实践しよう」

服部即明(愛知県泉龍寺住職)

「食と学への展望」

三谷祥禰(大阪府観世音寺住職)

「ビルマ軍政下政治と向きあう仏教者たち」

馬島浄圭(愛知県妙本寺住職)

「日蓮聖人の出家の動機の省察―史的日蓮伝

―」
木村勝行(岩手県本増寺住職)

特別発表(映画上映)

「お坊さんは映画『熊笹の遺言』を是非見てく

ださい」
町田栄作(前清澄寺護山会会長)

●平成十七年一月二十四日、教化学研究集会を秋

田県秋田市見性寺に於いて開催した。

講演 「新宗教および新新宗教の実態と日蓮宗の
対策」 伊藤立教（現宗研主任）

(3) 研究発表

第五十七回日蓮宗教学発表大会にて研究発表を行った。

「日蓮伝承における外護集団の一考察」

石川修道（現宗研嘱託）

「『南海寄帰内法伝』に見える病因論について」

影山教俊（現宗研嘱託）

(4) 研究例会

● 研究員が各自のテーマに沿って研究・調査を行い、研究発表を行った。発表テーマと発表者は次の通りである。

「明治最初期の日蓮宗寺院の様相について―日

蓮宗明治五年と同十年の書上についての分析

から―」 坂輪宣政

「男女共同参画について」 宇都宮恵禎

「意識の進化」 齊藤政通

「佛身論と唱題成佛」

小瀬修達

「真偽未決御書について」

松森孝雄

「孫子の兵法と教化戦略」

讚岐英昌

「織田信長と宗教」

中里観泰

(5) 平成十七年二月九日、第十五回法華経・日蓮聖人・教団論研究セミナーを、講演を公開講座とし、セミナー懇談会を宗務院で開いた。

講題

「曹洞宗の戦時教学

―聖典の不敬字句問題と皇道仏教を中心に―

工藤英勝

（曹洞宗人権擁護推進本部員・足利工業大学講師）
講題

「真宗大谷派における戦死者儀礼の変遷」

山内小夜子

（真宗大谷派教学研究研究所研究員・大谷大学非常勤講師）

3、出版・資料収集

(1) 「現代宗教研究」第三十九号を編集し、全教師に配付した。

- (2) 教団史研究資料の一つとして、各種資料より「平成十五年日蓮宗年表」を作成し、全教師に配布した。
- (3) 第五回教化学研究発表大会の発表をまとめ、小冊子を作成し、全教師に配布した。
- (4) 現宗研教化資料シリーズNo 27「顕正会についてⅡ」を作成し、全教師に配布した。
- (5) 「真似しちゃいけない！金儲けの手口」を作成し、全寺院に配布した。
- (6) 新宗教関係資料を収集し、保管した。
- (7) 各種伝道教化に関する資料を収集し、保管した。
- (8) 伝道・教化・研究に必要な図書を購入した。
- (9) 今年度購入・寄贈図書のコンピュータ管理のための蔵書整理とデータ作成を行った。

4、研究交流・会議

- (1) 六月二十一日、東京都港区増上寺に於いて浄土宗主催の「第二十四回各宗研究機関交流会」が開催された。今回は「現代における国内開教の課題と実践」をテーマに、それぞれの宗派の抱えている実態や課題について意見交換を行った。また、各教団・研究

所発行の関係資料を交換し、研究交流を深めた。

- (2) 六月二十四日、宗務院に於いて第十九回「教化センター連絡会議」を開催した。会議では、各センター発行の布教・教化・伝道資料の交換が行われるとともに、センター運営に関する問題点と各センター間の交流推進について話し合われた。

- (3) 十月八日、京都府京都市真宗大谷派宗務所に於いて第三回「教団付置研究所懇話会」が開催された。

研究発表Ⅰ「資料集『真宗と国家』の編集作業を通して―戦中・戦後の連続と非連続―」

山内小夜子（真宗大谷派教学研究所研究員）

研究発表Ⅱ「戦下の生活に見る金光教の信仰」

大林浩治（金光教教学研究所部長）

研究発表Ⅲ「生命と科学」

碧井猛（カリフォルニア人間科学大学院客員教授）

研究発表Ⅳ「近未来のアイデンティティの模索

―インド体験27年を振り返り―」

中村行明（世界仏教徒センター会長）

- (4) 研究員会議・顧問会議・囑託会議を開催し、研究所

並びに研究のあり方などについて討議し、内容の充実に努めた。

(5) 教区・管区主催の各種研究会議・研究会などに出席した。

平成十七年度現代宗教研究所事業計画案

1、教化研究会議

(1)第三十八回中央教化研究会議

●期日 九月七日（水）～八日（木）一泊二日

●会場 宗務院会議室

●教区教研運営委員や関心のある教師の参加

●運営会議を開き、内容を協議し、企画・運営などの要綱を決定する。会議資料を作成する。

(2)教区教化研究会議の開催運営

●全十一教区での開催運営。

●中央教研との関連を踏まえ、各教区・管区で教化の現場に関連するテーマを企画し、教化研究の充実を図る。

●教研運営委員と協議し、地域の独自性を加味し、企画・準備・運営に取り組む。

2、研究部門

(1)日蓮教学の現代化。中央教研や教化学研究発表大会

の成果を踏まえ、研究員を中心に教学の現代化について研究を行う。

(2)教化学の研究。第六回教化学研究発表大会を開催し、教化のあり方、現代教化の方策を研究する。必要に応じて、教化学研究集会を開く。研究発表を通じて、中央教研と教区教研との交流をはかる。

(3)教団論の研究。第十六回法華経・日蓮聖人・教団論研究セミナーを開催し、現代の諸問題と教学・教化について研究をすすめる。

(4)新宗教研究。法華系新興教団を中心に、研究を行う。

(5)立正平和運動の研究。自衛隊のイラク派遣や改憲論議のある現在、『立正安国論』奏進七五〇年（平成十二年）の意義を考える。

(6)教団史研究。明治以降の近代日蓮教団史を中心として、他教団との関わりについて研究する。

(7) 研究例会。研究員各自のテーマをそれぞれの立脚点として、研究を継続し、成果を発表する。

(8) 現宗研ホームページサイト上の「日蓮宗教化センター」を運用する。また、諸資料のデータベース化、各種事業の公開など新たな布教伝道方法を研究する。

(9) 「仏教各宗教化関係研究機関連絡協議会」「教団付置研究所懇話会」への参加。

(10) その他

3、調査部門

(1) お題目総弘通運動総括全教師アンケート結果をもとに、今後の教団のあり方を調査する。

(2) 全女性教師アンケートの結果をもとに、男女共同参画にかかわる問題を調査する。

(3) 必要に応じてアンケート調査をする。

(4) その他

4、資料部門

(1) 各教化センターとの教化研究、布教資料などの交流を図り、収集に努める。

(2) 図書を購入し、コンピュータにより蔵書を管理する。

(3) 視聴覚資料の購入・保管。

(4) 各種教化資料を収集し、保管する。

(5) 創価学会・顕正会など法華系新興教団に関する資料を収集し、保管する。

(6) 「現代宗教研究」第四十号の発行。

(7) 平成十六年日蓮宗年表の発行。

(8) 教化シリーズの発行。

(9) その他

5、会議

(1) 教化センター連絡会議を開催し、四十四教化センター間の交流、情報交換などを行う。

(2) 教区教化研究会議連絡会議を開催し、各教区の教区運営委員とともに各教区教研間の協力と調整を図り、一層の充実を目指す。

(3) 研究員会議・顧問会議・嘱託会議の開催。

(4) その他